



■ 第11回定期演奏会

慶應義塾 高等学校 楽友会  
女子高等学校

■ 1975年3月21日(金) 6.30 P.M ■ 厚生年金会館小劇場

慶応義塾 高等学校 合唱団楽友会 第11回定期演奏会  
慶応義塾 女子高等学校

1975年3月21日 6:30

厚生年金会館小劇場



## ごあいさつ

身を切るような木枯しも、いつしか暖い春風に変わり、私達楽友会も第11回定期演奏会を迎えることになりました。

今宵はお忙しい中を、御来場下さいまして誠にありがとうございます。

思えば高校楽友会単独での第1回定期演奏会がこの会場で開かれてから早くも10年という歳月が流れました。今年度は、まとめ役の三年はたった3人しか居らず、その重責に戸惑い時には失敗することもありました。が、二年、一年の協力の下に新たなる楽友会の10年の出発点として恥ない演奏会を目標に全員一致して努力してまいりました。そして、私達は先輩方から受け継いでいる「合唱音楽への憧れ」と「歌うことの楽しさ」によって、強く結びつけられ、ようやく皆様方の前で歌をお聴きいただけることになりました。

私達のこの一年の活動の成果を今宵の演奏から感じとっていただくことが出来れば幸いに存じます。

最後に、常日頃から御指導いただいた日吉校部長の岡田忠彦先生、今年度をもって御勇退なさる女子校部長の渡辺恵美子先生、快よくピアノ伴奏を引き受けて下さった岡田知子先生をはじめ、この一年間私達のために御尽力いただいた方々に厚くお礼を申し上げます。

御来場下さいました皆様、どうぞごゆっくりとお聴き下さるとともに、今後とも一層の御指導御批判をお願いいたします。

慶応義塾 高等学校 合唱団楽友会  
慶応義塾 女子高等学校

## 第11回定期演奏会によせて

慶応義塾高等学校長 辻 岡 昭

音楽は吾々の精神を高貴にするばかりでなく、吾々を調和的共同精神の世界に引きつけていく。このことは、音自身に内在する、不協和音が協和音に到ろうとする調性<sup>トナリティ</sup>によってであるが、また同時に、個々の演奏の協同によるアンサンブルや、演奏する者とそれを聴く者との内的な呼応によって、一つの社会がそこに構成されるからであろう。つまり音楽において、吾々は外から強制されずに、内から発する自由によって、ハーモニーの世界に参加し得るのである。

個人の多様なニュアンスが折り重なって、全体として複雑であっても、そこに豊かさがあり、しかも調和があるのが吾々にとって望ましい世界であろう。今回の定期演奏会を機に、このような世界の一つを開示してほしいものである。大いに期待したい。

## 第11回定期演奏会によせて

慶応義塾女子高等学校長 中山 浩二郎

明るい希望を囁く春の声にのって、今年も演奏会の季節が訪れてきました。音楽を通して互いに友情を深めながら、自らの能力開発と人格陶冶とに励み合うこの活動が、11回もの長きにわたって継続され、ますます発展し続けていることを、会員の皆さんと共に慶びたいと思います。

学問であれ芸術であれ、人間の精神的活動はいつでも普遍的なものを求めています。それは、真なるもの、善なるもの、美なるものが、時代と場所を超えて、何時、如何なる所ででも人の心をうつものであり、人にやすらぎを与えるものである、その確信からに他なりません。

それにも拘らず、現実の世界は政治的、経済的、思想的対立にみちみちており、人間生活は日々不安にさいなまれています。

そうした中で、あらゆる境界を超えて万人の胸に迫る音楽に親しむ時を持ちうるということは、何と素晴らしいことでしょう。

演奏会の成功を心から祈り、かつ、この会のため種々お骨折下さった皆さん、今日の発表にお集まり下さった聴衆の皆さん方に厚く御礼申し上げます。

## 第11回定期演奏会を迎えて

慶応義塾高等学校楽友会部長 岡田 忠彦

ことしの演奏会は、会場の都合で今まで連続使用してきた文化会館小ホールから、この厚生年金小ホールになりました。

そのむかし三校合同演奏会と申しまして、慶応、早稲田、共立の合同合唱演奏会を毎年共立講堂でつづけて来ましたが、これを解散しそれぞれ独自の演奏会をもつことになりました。わが楽友会の最初の演奏会が、このホールだったのです。この度第11回が、また思い出深いこのホールで催されることになりました。10年一昔と申しますが、すぎ去った10年の一こま一こまを省みると共に、今日の演奏会が次の新たなる10年への第一歩にふさわしい実りある会となることを願っております。

## 第11回定期演奏会を迎えて

慶応義塾女子高等学校楽友会部長 渡辺 恵美子

高校楽友会の演奏会が第11回目を迎えることになりました。楽友会の歩みをふり返ってみると感慨深いものがあります。大学の楽友会と長い間一語に唱い、それから早稲田高校、共立高校と共同で三校合同の音楽会を何度か重ね、その後で慶応日吉高校と女子校のみの演奏会を開くようになり、あれから11年が経ちその間に生徒は新入生を迎えては卒業生を送り出すという新陳代謝をくり返しました。だから何時まで経っても三年以上訓練した人は居ません。にも拘らず楽友会の合唱はヴォイストレーナー、指揮者、先輩たち及び当時者たちのひたむきな努力のため積み重ねによって次第に技能が向上して今では高校生のコラスとしては最高クラスの水準にまで到達していると思います。ひいきの引き倒れとばかり嘲笑されるむきもありましようが真実かどうか今宵はとくと御聴き願ひ御高評賜れば幸せに存じます。

## PROGRAMME

### 「てんぐ物語」

宮 沢 章 二 作詩  
中 田 一 次 作曲

指揮 小 野 真 史

### 混声合唱とピアノのための組曲「都会」

岩 谷 時 子 作詩  
中 田 喜 直 作曲

指揮 金 井 信

ピアノ 岡 田 知 子

— 休 憩 —

### 「自然の歌」

ビョテスラフ・ハーレク 作詩  
A. ドヴォルザーク 作曲  
植 村 敏 夫 訳詞

指揮 金 井 信

### ミサ曲 ト長調

F. P. シューベルト 作曲

指揮 伊 藤 俊 介

ピアノ 岡 田 知 子

— 休 憩 —

### 混声合唱のための組曲「旅」

山之井 慎 作詩  
田 中 清 光  
佐 藤 真 作曲

指揮 金 井 信

ピアノ 岡 田 知 子

## 伴奏者紹介



岡田知子先生

昨年に引き続き伴奏を引き受けて下さいました。昨年東京芸術大学楽理科を御卒業なさり、今年度1年間女子高で教鞭をとられました。お忙しいのにもかかわらず、伴奏以外にもいろいろと私達の面倒を見て下さいました。いつでも優しいステキな方です。

## メンバー

Soprano	Alto	Tenor	Bass
星野 真知子	後藤 保子	金井 信	伊藤 俊介
高塚 由美子	酒井 誠子	小野 真史	北見 淳
建部 祐子	大野 勢津子	高階 厚史	伊木 尚人
小野 薫子	坂上 由美	白子 幸夫	伊藤 浩道
星野 佐知子	鈴木 宏子	篠原 幸吾	浅野 隆一
小川 弥生	桑本 多希子	上田 衛門	阿波田 尚
西村 雅江	河西 優子	野口 裕之	斉藤 良治
酒井 晴美		足立 正	高山 和正
頭川 妃穂			近藤 敏康
			高橋 治之



## 5. 都会

皆さんの眠りをさますかのように、ピアノの前奏が始まると、第一曲に現われた旋律が $4/4$ から $3/4$ に変わって現われます。都会の持つメカニックで、鋭角的な表情を象徴するかのように $3/4 \cdot 4/4 \cdot 9/8 \cdot 10/8 \cdot 3/4 \cdot 9/8 \cdot 5/4$ とめぐるしい拍子の変化と、数度の転調があり、皆さんをいやがおうでも緊張へと引きずり込みます。最後は $5/8$ のまま $fff$ で、全曲を閉じます。

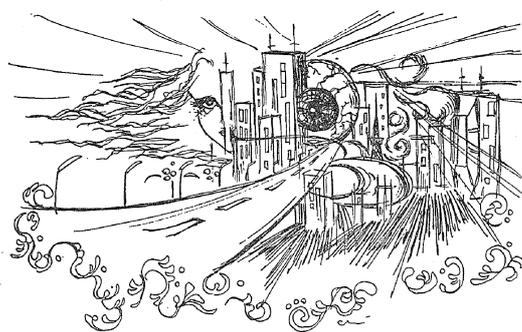
### 「都会」感想

1年坂上由美

都会……。めまぐるしく、忙しい町。しかし、その中で生活する私達は、それに気づかない。それが習慣となってしまっているから。

だから、都会の人は皆、せっかちだと言われる。そして私がふと気がついて、まわりを見れば、そこはまるで車と騒音で満たされた地獄である。が、そんな都会にしたのは、他の誰でもない。私達、すなわち人間なのである。そして、今、都会にある物はすべて人間がよかれと思ってやって来たことで、その中には大変な努力が刻み込まれている。そう、皆で作ってきた努力の結晶なのである。

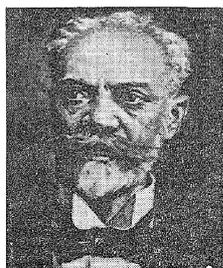
たしかに都会はめまぐるしい、いやな所もある。けれどもそれは人間と同じである。子が親をまねるように、人間で作られた都会もだが人間と同じように、長所も短所もあるのだ。皆人間をまねている。都会は、かえって、人間らしさを出している面白い町だ、と私は思うのである。



## 第 2 ステージ

A. Dvorák 作曲

## 自然の歌



ドヴォルザーク (Antonin Dvorák 1841~1904) は、チェコスロバキアのプラハ近郊に生まれました。チェコは長い間オーストリアの支配下にあり、民族的傾向をもった音楽は生まれにくかったのですが、1860年プラハ合唱協会の設立により、まずスメタナが出たことによって近代チェコ音楽の基礎が開かれました。そして、それに続いてこのドヴォルザークが出るに及んで、チェコ音楽の民族主義的傾向は頂点に達しました。ドヴォルザークの作品は「新世界」「チェロ協奏曲」「ドゥムキー・トリオ」「アメリカ」四重奏曲「スラヴ舞曲」等有名なものも多いのですが、合唱曲となるとあまりないようです。もつとも宗教的な大曲には、「スタバト・マーテル」「レクイエム」「テ・デウム」などがあります。一方世俗的なものでは、これからお贈りする「自然の歌」が一番広く愛好されています。

この曲はチェコの自然を非常に愛した彼が40歳の頃書いたもので、全5曲から成っています。その一曲一曲は趣を異にしている、自然の中に感じられる様々の微妙な変化や、その時に湧き出てくる気持ちを歌い上げたものです。メンデルスゾーン風の清新な響きにボヘミアの味をミックスしたこの曲は「ボヘミアのシューベルト」と言われる彼の姿をよく表わしているものといえます。

1. 懐しき歌
2. 林に夕べの鐘ひびき
3. 輝く野づら
4. 若き白樺
5. これぞ喜びの日



# 曲目解説

## ミサ曲第2番 ト長調

## 第2ステージ

F. P. Schubert 作曲



フランツ・ペーター・シューベルトは1797年1月31日、ウィーン近郊で教師の子として生まれました。彼の生涯はベートーベンのそれと幾度か交錯しています。ベートーベンは彼について「まことシューベルトには、崇高なきらめきがある」と高く評価しましたし、シューベルトもベートーベンを深く尊敬していました。にも拘らず、シューベルトはその内気な性格からベートーベンに会うのをためらったので2人が対面したのはもはやベートーベンが死の床にある時だったのです。

シューベルトがベートーベンから大きな影響を受けたことは疑いのない事実です。しかし、彼の「音楽の世界」はベートーベンのものとは全く違ってしています。ベートーベンが、「力」と「構成のみごとき」を音楽に求めたのに対し、シューベルトにとっての音楽とは「歌」であり、その歌を引き立て、柔かく包むハーモニーでした。彼は何よりも美しさと抒情を求めたのです。

シューベルトは16才で交響曲を書いた程早熟でした。彼は20才で作曲家として生きてゆくことを決意し、それまでの教職（彼は父の経営する初等学校で教えていた）を捨てました。安定した職を持たない彼は作曲に専念することが出来るようになりましたが、経済的には非常に困窮することとなりました。実際、彼が作曲で得た報酬は普通の人の一年分の収入にも満たなかったそうです。そこで、シューベルトは彼の才能を認めてくれる詩人、画家、下級官吏達の援助に頼って暮らします。すなわち、定住することも出来ず、あちらの詩人の家、こちらの画家のアトリエ……と居候していたのです。そして、やっと作曲家として世間に認められた1828年11月19日に彼は31才の若さでベートーベンの後を追うようにして亡くなりました。

いつも一文なしで作曲するピアノさえ満足に無かったシューベルト。しかし、彼は多作家でした。彼は、いつ、いかなる場所でも作曲をしました。彼の頭の中には楽想が常にあふれ、1日に7、8曲も歌曲を作曲する程でした。こうして、「美しい水車屋の娘」、「冬の旅」、「白鳥の歌」などのおびただしい数の名歌曲をはじめ、弦楽四重奏曲「死と乙女」、ピアノ五重奏曲「ます」などの室内楽や「未完成交響曲」、「ロザムンデの音楽」、などの管弦楽曲の作品を残し、多くの名曲が遺作として死後何年も経ってから再評価されたシューベルトが初めてロマン派作曲家としての抒情性を見せたといわれるのがこのミサ曲ト調です。

楽曲はローマ・カトリックのミサに準じて六曲から成り、歌詩はラテン語のミサ通常文に従っていますが、省略や追加が見られます。原曲では伴奏は小規模の弦楽合奏とオルガンで演奏するように作曲されています。この曲における流れるような旋律や独特な和声進行には「歌曲王」シューベルトらしい特長が出ていて、彼の晩年の作品を想わせる雰囲気もあります。

ところで、楽友会は昨年演奏会でもミサ曲を取り上げました。それは、「ミサ・プレヴィス」(KV.194)で、モーツァルトが18才の時の作品でした。偶然にも、このシューベルトのミサ曲ト長調は1815年7月の作曲で、やはり彼が18才の時の作品なのです。このことは取り上げた後になって分ったのですが、ただの「偶然」では済まされないような気がします。

ですから、私達は35才で他界したモーツァルトと同様に、わずか31才でこの世を去ったシューベルトが私達と同じ年頃で作曲したこのミサ曲を少しでもよく理解しようと練習を重ねてきました。18才のシューベルトが何を考え、何を言いたくてこの曲を書いたのか。それを私達の演奏から少しでも聞き取っていただきたいと思います。

### 「ミサ曲」感想

1年 阿波田 尚

僕は、楽友会に入部して、初めてミサ曲を歌いました。それまで僕はミサ曲をまったく知りませんでした。そこで、先輩からミサ曲がイエス・キリストを讃美する歌であると教わったり、又、自分なりにミサ曲についていろいろと考えてみました。ミサ曲は、具体的に言葉の意味がわからなくとも感激できて、何かを感じ取れる曲です。僕はこの曲を歌っているうちに、ミサ曲に底知れぬ雰囲気を感じるようになり、ミサ曲を歌うのが楽しくなってきました。

この曲は、シューベルトが18歳の時に作った曲だそうです。そうすると、彼は今の僕達の年頃でこの曲を作ったこととなります。今さらのように僕は彼の音楽的才能に驚嘆しました。

シューベルトと僕達では、音楽的に比較にはなりませんが、この曲を歌う気持ちでだけは負けないように心をこめて、一生懸命歌います。

# ミサ曲について

ミサ曲とは、ローマ公教会（ローマ・カトリック）典礼の中心に位する「祈りの儀式」＝ミサ、で歌われる宗教音楽のことをいいます。ミサ曲の歌詞は決っていて、ミサ通常文（Missa Ordinarium）と特定な日に使用するミサ個有文（Missa Proprium）から成っていますが、今宵演奏するミサ曲は通常文のみによるミサ曲です。ミサ通常文はキリエ、グローリア、クレド、サンクトゥス及びベネディクトゥス、アニュスデイという表題を持つ5(6)章で構成され、ミサの進行に合わせて歌われます。

## Kyrie (キリエ)

Kyrie, eleison. Christe, eleison.

主よ憐れみたまえ、キリストよ憐れみたまえ

ミサに入る時（入祭の儀）において歌われる、憐れみの讃歌です。9回反復されるギリシヤ語の祈りの言葉は、すべて「主よ憐れみ給え」だったのですが、「主」を説明するために真中の3回が「キリストよ憐れみ給まえ」となりました。

## Gloria (グローリア)

Gloria in excelsis Deo

天のいと高きところには神に栄光

Domine Fili unigenite' Jesu Christe

主なる御ひとり子、イエズス、キリストよ

Cum Sancto spiritu in gloria Dei patris Amen

聖霊とともに父なる神の栄光のうちにアーメン

この章はキリスト降誕の時、天軍や天使によって歌われたと聖書にある「天のいと高きところには神に栄光あれ」の一節から始まる神の栄光をたたえる讃歌です。この曲は三位一体のキリスト教の教えに従って講成されています。つまり、第1部では「父」である神を、第2部では「父」の御一人子イエズス・キリストを、そして第3部では「主」なる聖霊を讃美しているのです。「キリエ」は救いの嘆願ですが、「グローリア」はそれと正反対に救われたものの喜びの歌です。

## Credo (クレド)

Credo in unum Deum

われは信ず唯一の神

Et incarnatus est de Spiritu Sancto ex

聖霊によりて処女マリアより

Maria Virgine : Et homo factus est.

御からだを受け、人となりたまえり

Crucifixus etiam pro nobis : sub Pontio

ポンシオピラトのもとにてわれらのために

Pilato : passus, et sepultus est.

十字架につけられ、苦しみをうけ、葬られ

Et resurrexit tertia die secundum Scripturas.

聖書にありしごとく三日目によみがえりたまえり。

Et in Spiritum, Sanctam, Dominum, et vificantem.

われは信ず、主なる聖霊、生命の与えぬしを。

Et vitam venturi seculi Amen.

来世の生命を待ち望む、アーメン。

クレドは福音朗読や説教が終わった後に歌われ、神のお教えを聞いた信者の各々が洗礼を受けた時を思い起こし、新たな信仰を告白する信仰宣言の歌です。クレドも三位一体の教儀に従って構成されています。

## Sanctus, Benedictus (サンクトゥス・ベネディクトゥス)

Sanctus, Sanctus, Dominus Deus <sup>Sanctus</sup> ~~Sacrosanctus~~

聖なるかな、万軍の神なる主

Benedictus qui venit in nomine Domini

ほむべきかな主の名によりて来たる者

Hosana in excelsis !

天のいと高きところにホザンナ

この章はサンクトゥス（聖なるかな）で始まる前半と、ベネディクトゥス（ほむべきかな）で始まる後半と、に分けられ、それぞれ独立した曲として歌われることがよくあります。前半（サンクトゥス）は天国で天使達が歌っているという幻の聖歌で、後半はキリストが十字架刑となる数日前に城市エルサレムに入った時、熱狂した群衆が歌ったといわれる讃歌です。前半の結びの句と後半の結びの句は同一なので多くは同じ旋律が用いられます。なお「ホザンナ」とは「憐れみたまえ」とか「栄光あれ」という意味を持つヘブライ語ですが一種の掛け声です。

### Agnus Dei（アニユスデイ）

Agnus Dei, qui tollis peccata mundi :	世の罪を除きたもう主よ
miserere nobis	われらを憐れみたまえ
Dona nobis pacem.	われらに平安を与えたまえ

ミサにおける最も重要な儀式で、最後の晩餐においてキリストが12人の弟子達に自分のパンと葡萄酒を分け与え、「パンは私の体であり、葡萄酒は私の血である」と言われた事を再現する聖体拝領の儀式の際に歌われ、神に対して憐れみと平和を嘆願する歌です。聖体拝領の儀はイエス・キリストの十字架による受難と原罪の贖いとしての死を象徴しているので、アニユスデイには深い祈りの雰囲気を持つ曲が多数あります。

## 曲目解説

### 第 3 ステージ

佐藤 真 作曲

### 組曲「旅」

この組曲は、田中清光氏及び山之井慎氏の詩に佐藤真氏が作曲したもので、昭和37年度文部省主催による第17回芸術祭に参加しました。組曲「蔵王」と並んで日本の合唱曲では最も有名なものの一つです。アマチュアの為に書かれたせいもあり、演奏は比較的容易なので演奏会に取り上げられる機会も多く、御存知の方も多いことと思います。

#### 1. 旅立つ日

たくましく育った若者達が自らの足で広く新しい空の下に旅立とうとする様子を、力強く輝かしく歌います。

#### 2. 村の小旅で

小高い山を登ると山また山、若者はあえぎながら山を越えると静かな小さな村へ降り立ちました。そこでの経験を男声のハミングにのせて女声がしみじみと歌います。

#### 3. 旅のよろこび

灰色の青空から舞い上がった蝶のように、若者は山に飛び海辺に舞い降ります。山を呼び海に叫ぶ若者の様子を、楽しく軽やかに歌います。

#### 4. なぎさ歩めば

かって旅した海辺で若者は夏の思い出を歌います。この組曲中最も叙情的な味わいのある曲です。間奏部のピアノも印象的です。

#### 5. がごにのって

古びたリュックをかつぎ、ピケ帽をかぶった若者が一人で田舎の山道を登ります。男声の「エーイホ」のかけ声にのって女声が民謡調の旋律を歌います。

#### 6. 旅のあとに

旅の空の下には険しい山、広大な草原、見知らぬ海——疲れ果てた若者の足取りは重い。青い翼のあこがれの鳥は今、灰色と化し、むなしく古い街へ帰ろうと叫ぶのです。ゆっくりと語るように歌う旋律と暗く重々しい伴奏が、疲れきった若者の様子を表わします。

## 7. 行こうふたたび

ふと窓から真赤な夕日を見ると、若者の心には、夕日に映える山脈、夕日にきらめく海が思い起こされます。もう若者は新しいあこがれの眼を四方にむけているのです。明るく輝く未来を思う若者の心をあこがれをもってさわやかに歌います。最後の部分では、冒頭の旋律が繰り返されて全曲を結びます。

### 「旅」 感想

2年 小野 薫 子

「まことの旅人は 出発するために 旅に出る」というシャルル・ボードレーの言葉が、「旅」の楽譜の冒頭にある。この曲を歌う度にこの言葉の意味を考える。「出発するために旅に出る」……。 「旅」って何だろう。

人生とは長い旅のようなものだ とよく言われる。人生には喜怒哀楽、量りしれないほどのものが潜んでいる。この組曲「旅」にもその縮図のようにいろいろな歌がある。1曲1曲に違った心情がこめられている。希望に満ちているのもあれば、もの悲しいものもある。しかし、最後には明るく輝く未来へ向って旅立てとうたわれている。この曲は卒業してゆく3年生、いや彼らに限らずこれからの世代を創りあげる我々全てに贈られ、そしてまた明るい未来を創る為の成長を希望しているように思える。わたし達はこの演奏会で、少しでもその希望を叶えるためにも「旅」を心をこめて歌い、限りない未来へ出発したい。

## 旅

### 1. 旅立つ日

田 中 清 光

行け 旅に  
いまこそ！  
憧れに になわれて

行け 旅に  
いまこそ！  
はてしない山路を行け

草原に草雲雀  
ひかりはみなぎり  
ああ 湧きあがる  
よろこびの歌声

行け 旅に  
いまこそ  
はてしない海辺を行け

山脈に風わたり  
われをいざなう  
ああ 湧きあがる  
希望の歌声

行け 旅に  
いまこそ！  
憧れに になわれて

### 2. 村の小径で

山之井 慎

村のじさまが語ってくれた  
いろりパチパチ 昔のはなし

村のじさまが語ってくれた  
人を化かした 狸のはなし

村の地蔵さんが おしえてくれた  
この径ホロホロ 山鳩なくよ

村の地蔵さんが おしえてくれた  
野兎とぶぞ 腰ぬかすなよ

峠の一本杉 送ってくれた  
狐火ボウボウ 迷子になるな

### 3. 旅のよろこび

山之井 慎

飛んでる飛んでる 飛んでる雲が  
みどり山脈 わたって飛ぶぞ  
おーい！  
そよ風にむけ いま叫ぶ  
旅のよろこび  
はるか青空にいま心ひらく

### 旅のよろこび

ここにいま知る

飛んでる飛んでる 飛んでるかもめ  
白いマストをかすめて飛ぶぞ  
おーい！  
汐風にむけ いま叫ぶ  
旅のよろこび  
かなた黒潮にいま心ひらく  
旅のよろこび  
ここにいま知る

飛んでる飛んでる 飛んでる夢が  
はるか夕日にむかって飛ぶぞ  
おーい！  
夕やけにむけ いま叫ぶ  
旅の よろこび  
はや 明日を呼びいま心ひらく  
旅のよろこび  
ここにいま知る

4. なぎさ歩めば

山之内 慎

なぎさ歩めば  
 きこゆるは 遠き沙鳴り  
 せつなくも 胸をうつ  
 遠く過ぎし日  
 めくるめく ひかりの波に  
 声あわせ しぶきあげて  
 二匹の魚の  
 ほとぼしる あの日の宴よ  
 なぎさ歩めば  
 なつかしき 夏の想い出うかぶ

さびしきあまき愁い  
 はかなくも夢みたる  
 はらかな海原は  
 藍にかげろう  
 なぎさ歩めば  
 なつかしき夏の想い出うかぶ  
 はてしなき 想い出

5. かごにのって

田中清光

えーいッホ えーいッホ  
 かごがゆれてく  
 そば咲く道  
 浅間嶺ぐしに青空みれば  
 羊の雲が  
 はるばる浮ぶ  
 かごかき 帽子が おおきくゆれた  
 えーいッホ えーいッホ  
 峠こえれば  
 きび咲く道  
 落葉松林にコガラがないて  
 すすきの手袋  
 かすかにゆらぐ  
 かごかき 帽子が おおきくゆれた

ゆうらり ゆうらり  
 提灯ともし  
 夜っぴて  
 旅してゆくならば  
 めうらり ゆうらり  
 心のなかで  
 ひとつの星が  
 うまれましょ

えーいッホ えーいッホ  
 村にはいれば  
 つるべが軋む  
 藁屋根ぐしに夜空をみれば  
 星屑ながれ  
 さむぎむ消える  
 かごかき 帽子が おおきくゆれた  
 えーいッホ えーいッホ  
 えーいッホ えーいッホ

6. 旅のあとに

田中清光

疲れきって  
 わびしいはたごに  
 足を 投げだす  
 ああ 道は  
 立ちこめる闇に消され  
 地図も失くした 旅のおわり  
 疲れきって  
 枯草の丘に  
 足を 投げだす  
 ああ 風は  
 吹きぬける胸のうつろを  
 空も翳った 旅のおわり  
 薔薇色の雲は ぐだけて  
 夢は消え ひかりほろび

ああ いまは哀し  
 旅のおわり  
 疲れきって  
 わびしい港に  
 出船を 見送る  
 ああ 海は  
 ふりしきる雨に昏れて  
 ひとり帰ろう 旅のおわり

7. 行こう ふたたび

田中清光

語ろう  
 美しい旅の日を  
 想い出は  
 あまく かなしく  
 はかなく さびしく  
 心の傷を  
 くりかえし  
 撫でるとも

行こう  
 ふたたび  
 旅立とう  
 われらのまなかいに  
 白雲ながれて  
 われらの心は  
 希望にもえたつ

ああ  
 未来は明るく輝やき  
 いまこそ 旅をおもう  
 行こう  
 美しい旅に

行け 旅に  
 いまこそ、  
 憧れに になわれて

## 三年のよこがお

星 野 真知子 (S.31.12.7生)

女子高の貴重なただ1人の3年生。とても面倒見が良く、後輩からも「マッコ」と呼ばれ、慕われています。

気は優しくて力持ち？ 涙もろーいおねえちゃん……とは1年生のHさんの言葉。明るい笑顔を絶やさず、みんなをひっぱってくれるマッコ。いつもソプラノの中心となり、本日のミサ曲では一生けん命練習をしたソロを御披露します。「ね、ね、〇〇ってステキだと思わない？」などと、〇〇に関しては3年らしからぬ熱中ぶりに思わず皆アゼン。「とにかくいい人なんすよオー」と言われているマッコです。



金 井 信 (S.31.9.17生)

音楽才能に満ちあふれ、その即興演奏の素晴らしさは目を見はるばかり？

振ってよし、歌ってよし、弾いてよし。

その魅力は我々をひきつけます。

夜となく、昼となく、楽友会的美(?)少年を、追いまわし、合宿ではハ〇カ踊りも披露したとかしないとか。

本日は3つもステージを受け持ち、ミサ曲ではその素晴らしい声でテナーのソロを聞かせてくれます。

伊 藤 俊 介 (S.32.220生)

いつもにこにこ。バナナとパセリを愛する俊ちゃんは、ベースの大黒柱。恐怖のVチョップの嵐の中でも強く生きぬいてきました。何事にも情熱的にぶつかって、炎のように燃えあがる人。それが俊ちゃんです。淀川長治さんの真似も上手です。

本日のステージではミサ曲を指揮しますが、彼がどんなに情熱家であるかということは、その指揮ぶりを見ていただければわかると思います。

## パートから一言

### Soprano

御存知、エリート・ソプラノ9人娘……。授業中でもクラブでも、いつもエリート……。成績優秀・品行方正・美女ぞろい・奇妙奇天烈・摩可不思議、と自分達では思っているのです。そこで一言、「男ってやあねエー！」。

### Alto

あーと——

あると=問屋=ヤッコ=コーヒー=宏子=コンビ=ビーバー=バター=タキ=近視=しょうゆ=ゆみ=店=セッコ  
=コマ=まゆ=優子=こらあ!!=あると。最後のことは「男の人ってステキネ！」

——7人のうるわしき乙女より——

### Tenor

貴女にテノールーの一番大切な歌をあげるわ どす黒い血のしごきで生まれた大切な歌をあげるわ

憎き指揮者に捧げる為練習してきたのよ トチッてもいい泣いてもいい歌は尊いわ

誰もが三度だけ経験するのよ 誘惑の演奏会。

### Bass

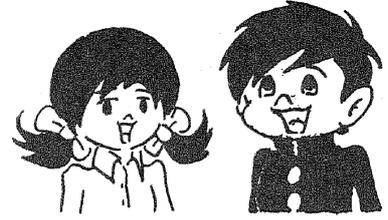
私はベースの方達を見て、初めて「一目惚れ」という言葉を理解しました。ああ、知性的なお顔、魅惑的なお声、それにあの素晴らしい肉体。私はすべてに憧れ、虜になりました。そして、ベースのあの方に私は……。

(女子校の某一年生部員の感想)

# この1年

## 〔春来れば……〕

日吉に三田にも春がやって来ました。新年度のスタートです。上級生の甘い言葉に誘われて、ちょっとやる気になって、クラブにはいる1年生。はいったらこっちのものとほりきる上級生。でも仲々良いムードです。



## 〔上級生 そののけそののけ 1年が通る〕

おとなしかった1年生もすっかりクラブに慣れて大きな声が出るように、そしてうるさくなってきます。そうして待ちに待った新入生歓迎会。楽しいゲームに熱中しているうちに、1年生もつい本性をあらわしてしまいます。

そしてこの頃から文化祭の準備が始まります。雨が降り、じめじめしていやな季節ですが、そんな天気とはうらはらに、帰り道には楽しいハーモニーが生まれます。

## 〔こだまする その歌声の すばらしさ〕

夏休みを返上して、“死のパー練”という異名をもつきびしい練習、そして合宿と毎日過ぎてゆきます。今年の合宿も例年どおり、清里高原で行なわれました。牧場にかこまれて歌う、その気持ちのよさといったらありません。まさに気分爽快です。

そして友達の以外な面をみつけて喜ぶのもこの頃です。

## 〔いざあげよ かちどき……〕

9月に入ると、いよいよ文化祭の本格的な練習が始まります。男子校の期末試験がおわると毎日暗くなるまで練習です。中心となって仕事を進めていく2年生は大いそがし……。

こうした半年の練習の成果を発表し、その努力を聞いてもらうのが文化祭です。昨年まで行なっていた教室での演奏に加えて、今年からは、催物として小講堂でも演奏し、十月祭・日吉祭とたくさんのお客様に来ていただきました。

## 〔冬空に さむざむうかぶ 白い雲〕

文化祭もおわり、1つの目標を失った私たち。しかしまだ最大の目標、定期演奏会があります。歌の方は夏の合宿以来歌っていないので多少わすれぎみ……。しかし年が明けると残るは定演のみと、皆の心が定演に向けられます。



## 〔本番 スタート!〕

ついに迎えた演奏会。今年は昨年までの東京文化会館から、厚生年金会館へと場所をかえ、新たな気持ちで迎えました。

この1年間、苦しいこと、楽しいこと、その他いろいろなことがありました。これらのすべてを発表するのが、本日の定期演奏会です。ステージに上がっている部員たちの顔を見て下さい。楽しそうな顔、今にも泣きだしそうな顔、その他いろいろな顔があるではありませんか! しかし、これらの顔も、本日の演奏会をもって幕となります。とにかく皆様、歌を聞いていただければ、ここに書いた私達の1年間すべてが分っていただけたと思います。

THE END

## 定期演奏会記録

第1回	〈ロマンスとバラード〉より 組曲〈長崎の祭り〉 その他	シューマン 森脇憲三	ドイツ学生歌集〈男声合唱〉 スタバト・マーテルより〈女声合唱〉 ペルゴレージ
第2回	組曲〈水のいのち〉 組曲〈蔵王〉 男声合唱のための 〈五つの日本民謡〉 中田喜直女声合唱曲集より	高田三郎 佐藤真 清水脩	その他 第7回 組曲〈筑後川〉 團 伊玖磨 メンデルスゾーン合唱集より その他
第3回	組曲〈旅〉 メンデルスゾーン合唱曲集より 服部公一女声合唱曲より その他男声合唱	佐藤真	第8回 合唱幻想曲 ベートーベン 〈橄欖山上のキリスト〉より 〈天使の合唱〉 ベートーベン オラトリオ〈四季〉より 〈来よ春〉 ハイドン
第4回	カンタータ〈土の歌〉 〈ロマンスとバラード〉 〈スペインの歌〉より 男声合唱組曲〈四月の歌〉 中田喜直女声合唱曲集より	佐藤真 シューマン 林 宏太郎	合唱詩曲〈花と愛と〉 服部克久 祝婚歌 大中 恩 その他
第5回	組曲〈自然の歌〉 組曲〈風と花粉〉 サウンド・オブ・ミュージックより その他	ドヴォルザーク 大中 恩 ロジャース	第9回 組曲〈水のいのち〉 高田三郎 ジプシーの歌 ブラームス 大中恩作品集より〈海の若者〉他 その他
第6回	イギリス・マドリガル集		第10回 メンデルスゾーン合唱曲集 ミサ・プレヴィス KV.194 モーツァルト カンタータ〈土の歌〉 佐藤 真

## これからの楽友会

感激を胸にこの演奏会が終われば、そこで一年間の活動には区切りがついて明日からはまた新しく楽友会の歩みが始まります。

しかしメンバーが少しずつ変わっても、私達楽友会がこれから目指して行くものは、今まで多くの先輩の方々が求め続けて来た“無心に歌の歓びを求める”ことに変わりありません。そしてこれから始まる新しい一年がどんなに辛く苦しいことの連続であっても、このことだけは決して忘れず一步一步ベストを尽くして歩んで行くつもりです。

歌の歓びは求めて行けば無限に広いものにちがいありませんが、私達はその極限を次の演奏会までにきわめる覚悟です。

本日は誠に有難うございました。

日本音楽著作権協会承認 第496013号

表紙 石田 智栄子  
カット 石田 智栄子  
上田 衛門  
印刷 (有)三青社

